

長野県キャリア教育推進協議会の審議内容について

教学指導課

1 協議会の目的

本県におけるキャリア教育の在り方及び小学校・中学校・高等学校における一貫した系統的・体系的キャリア教育の在り方について協議し、「長野県キャリア教育ガイドライン」を策定し、各校のカリキュラムに反映させる。

2 協議事項

- (1) 小学校・中学校・高等学校における一貫した系統的・体系的なキャリア教育の在り方、各校のカリキュラムについて
- (2) 地域、企業等が学校のキャリア教育を支援する仕組みづくりについて
- (3) キャリア教育推進のための教員研修の充実について
- (4) 「長野県キャリア教育ガイドライン」策定とその周知方法について

3 委員名簿（五十音順、敬称略）

座 長	糸井 重夫	松本大学松商短期大学部 教授
委 員	伊澤 宏爾	飯田市教育委員会 教育長
	伊藤かおる	株式会社コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
	久保 正直	アスザック株式会社 代表取締役社長
	栗原 満	中野市教育委員会 教育長
	玉井 康子	ジョブカフェ信州 若年者就業支援アドバイザー
	直井 良一	元信州ハム 常務取締役
	藤澤 令子	長野県経営者協会 課長
	伏木 久始	信州大学教育学部 准教授
	三木 正夫	須坂市長
	和田 晶宜	株式会社長野ダイハツモータース 代表取締役社長

4 開催状況等

第1回（平成23年6月8日）

長野県のキャリア教育の課題と今後の在り方について

第2回（平成23年7月22日）

長野県キャリア教育の推進について

キャリア教育支援のための仕組みについて

第3回（平成23年9月21日）

キャリア教育ガイドライン（案）について

第4回（平成23年11月11日）

キャリア教育ガイドラインの決定及びその周知について

長野県キャリア教育ガイドライン

(案)

長野県教育委員会

目 次

I	あらためて「キャリア教育」とは ～キャリア教育の理解の共有～ ・キャリア教育の定義	・ ・ 1 ・ ・ 2
II	長野県のキャリア教育の目標、方針と方策 1 目標 2 方針 3 方策	・ ・ 4
III	家庭・地域の教育力を活用した学校のキャリア教育支援 ・市町村キャリア教育支援協議会を中心とした学校を支える仕組 (プラットフォーム)	・ ・ 6
IV	産学官等の諸機関、団体が連携する県の組織とキャリア教育支援 1 「長野県キャリア教育支援センター」の設置 2 「長野県キャリア教育支援センター」の仕組	・ ・ 8
V	市町村(学校組合)教育委員会の取組	・ ・ 11
VI	幼稚園・ <u>保育所</u> ・ <u>学校</u> の取組 1 <u>幼稚園・保育所におけるキャリア教育</u> 2 <u>小学校におけるキャリア教育</u> 3 <u>中学校におけるキャリア教育</u> 4 <u>高等学校におけるキャリア教育</u> 5 <u>特別支援学校におけるキャリア教育</u>	・ ・ 12
◎	資料 ○各地域での取組 ・地域で育つ、地域に生きる、地域を活かす(長和町) ・かざこしカリキュラム(飯田市) ・中野西高校でめざすキャリア教育(中野西高校) ・キャリア教育の体系化 ・知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス」(試案)」	・ ・ 18

I あらためて「キャリア教育」とは ～キャリア教育の理解の共有～

現在、若者をめぐる社会情勢は厳しく、さらには精神的・社会的な自立の遅れも指摘されている。

そのため幼保・小・中・高の各発達段階において必要な教育を体系的・系統的に進め、学校から社会生活への円滑な移行が大切となっている。

そのような生涯にわたるキャリア形成に必要な能力や態度を培うためには、学校だけではなく、家庭や地域、産業界など社会(県民)が一体となって推進していく必要がある。

長野県教育委員会ではキャリア教育を推進するため、ガイドラインを策定し、各校のキャリア教育がより一層充実することを期待するものである。

キャリア教育の定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力

や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

(中央教育審議会答申 平成 23 年 1 月)

□ キャリア発達

・社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

□ 「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素（中教審答申）

★基礎的・基本的な知識・技能 ★基礎的・汎用的能力 ★論理的思考力・想像力

★意欲・態度及び勤労観職業観等の価値観 ★専門的な知識、技能

特に「基礎的・汎用的能力」についてはキャリア教育の中心として育成していくべきこと、として以下の 4 能力を規定

基礎的・汎用的能力

人間関係形成・ 社会形成能力	(例) 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ
自己理解・自己管理能力	(例) 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動
課題対応能力	(例) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追及、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善
キャリアプランニング能力	(例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善

□ 進路指導とキャリア教育

・進路指導は定義・概念としてはキャリア教育との間に大きな差異は見られず、その取組は、キャリア教育の中核をなすということが出来る。新学習指導要領の総則で「生徒が自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進する。」と述べているように、「生徒の自己の在り方、生き方を考える」ことや、生涯にわたってキャリア発達に必要な力や基礎的・汎用的能力（上述）を育む視点も大切にしたい。

□ 職業教育

・一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育

□ OECD「キー・コンピテンシー」とキャリア教育

OECD（経済協力開発機構）は、知識基盤社会における国際標準としての生きる力「キー・コンピテンシー」を以下の 3 つの要素に規定している。キャリア教育が目指す力と重なる部分がある。

◆社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力(個人と社会との相互関係)

◆多様な社会グループにおける人間関係形成能力(自己と他者との相互関係)

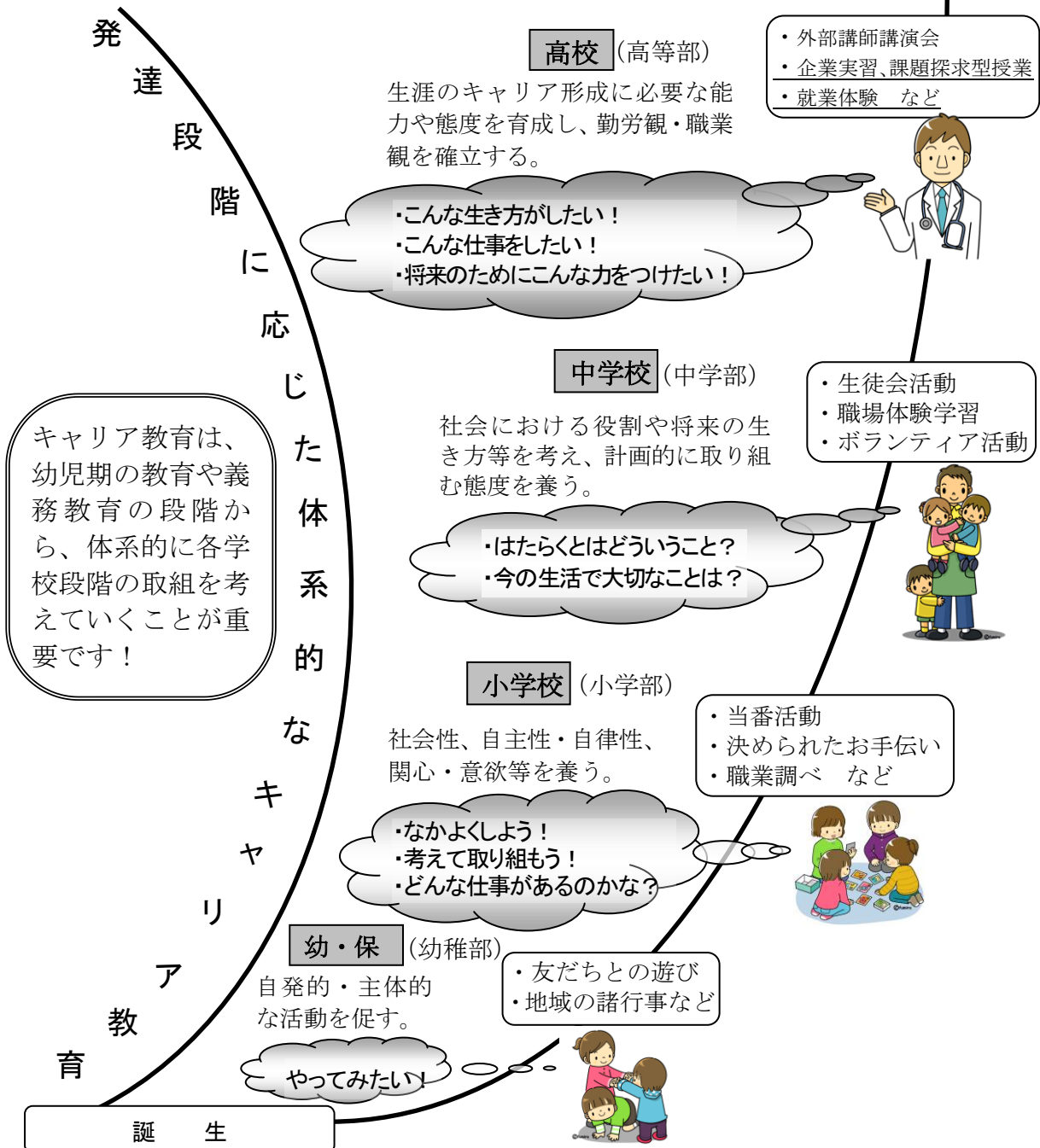
◆自律的に行動する能力(個人の自律性と主体性)

「OECD における「キー・コンピテンシー」について」（文部科学省より）

つながるキャリア教育

社会的・職業的に自立した人間の育成

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。



Ⅱ 長野県キャリア教育の目標、方針と方策

1 目標

社会的・職業的に自立した人間の育成

2 方針

- (1) 家庭・地域の教育力を活かし、地域社会全体で子どもを育てる。
・人材・環境・文化等のすぐれた教育力を活用する。
・地域社会でさまざまな体験をし、多くの人と触れあうことを通して、学ぶ目的や働く意味、生き方等について考えさせる。
- (2) 発達段階に即し、幼保・小・中・高が一貫した理念で子どもを育てる。
- (3) 各学校では、既存の取組や教育活動をキャリア教育の視点から見直し、体系化する。

3 方策

- (1) 家庭・地域の教育力を活用し、学校におけるキャリア教育を支援するための仕組（プラットフォーム）を市町村におく。
県レベルでも産学官等の諸機関、諸団体が連携する組織を作る。
- (2) 幼保・小・中・高の連携をキャリア教育の視点で推進する。
- (3) 各校でキャリア教育の目標、指導計画の見直しを行うとともに、職場体験学習等の事前・事後の指導を充実し、その振り返りを通して自分自身の成長や今後の課題に気づかせる。
また、教職員のキャリア教育に対する意識統一を図り、指導力向上のための研修を推進する。

1 家庭・地域の教育力を活かし、

地域社会全体で子どもを育てよう

長野県の家庭・地域の教育力とは

- すぐれた人材が豊富
- 伝統ある文化
- 恵まれた自然環境
- 「共育」クローバープラン★の浸透

長野県は体験的な学習が充実している

- 職場体験学習
- 自然体験活動
- 奉仕・福祉体験活動
- 地域行事への参加
- 人との関わり

★本を読む、汗を流す、あいさつ・声かけをする、スイッチを切る
を学校・家庭・地域で実践する活動

【方策(1)】 学校を支援する仕組（プラットフォーム）の構築

市町村教委が中心となり「キャリア教育支援協議会」を設置し、進める。
(支援協議会は既存の組織の活用も考えられる)

【方策(1)】 県レベルで諸機関、諸団体が連携する組織の構築

県教委が「県キャリア教育支援センター」を設置する。

2 発達段階に即し、幼保・小・中・高が一貫した理念で子どもを育てよう

子どもの成長をキャリア発達という視点で連続的にとらえる。

【方策(2)】 幼保・小・中・高の連携をキャリア教育の視点で更に推進する

市町村キャリア教育支援協議会における地域社会の声を聞きながら学校が中心となり行う。県の支援センターは参考例を示す。

3 各学校では、既存の取組や教育活動を

キャリア教育の視点から見直し、体系化しよう

新しいことを始めるのではなく、まず今ある活動を見返すことが大事

- 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の学習内容を整理
- 日常活動・行事の見直し
- キャリア教育の視点で整理した全体計画・指導計画の作成

【方策(3)】 キャリア教育の目標・指導計画の見直しと、職場体験学習等の事前・事後指導の充実

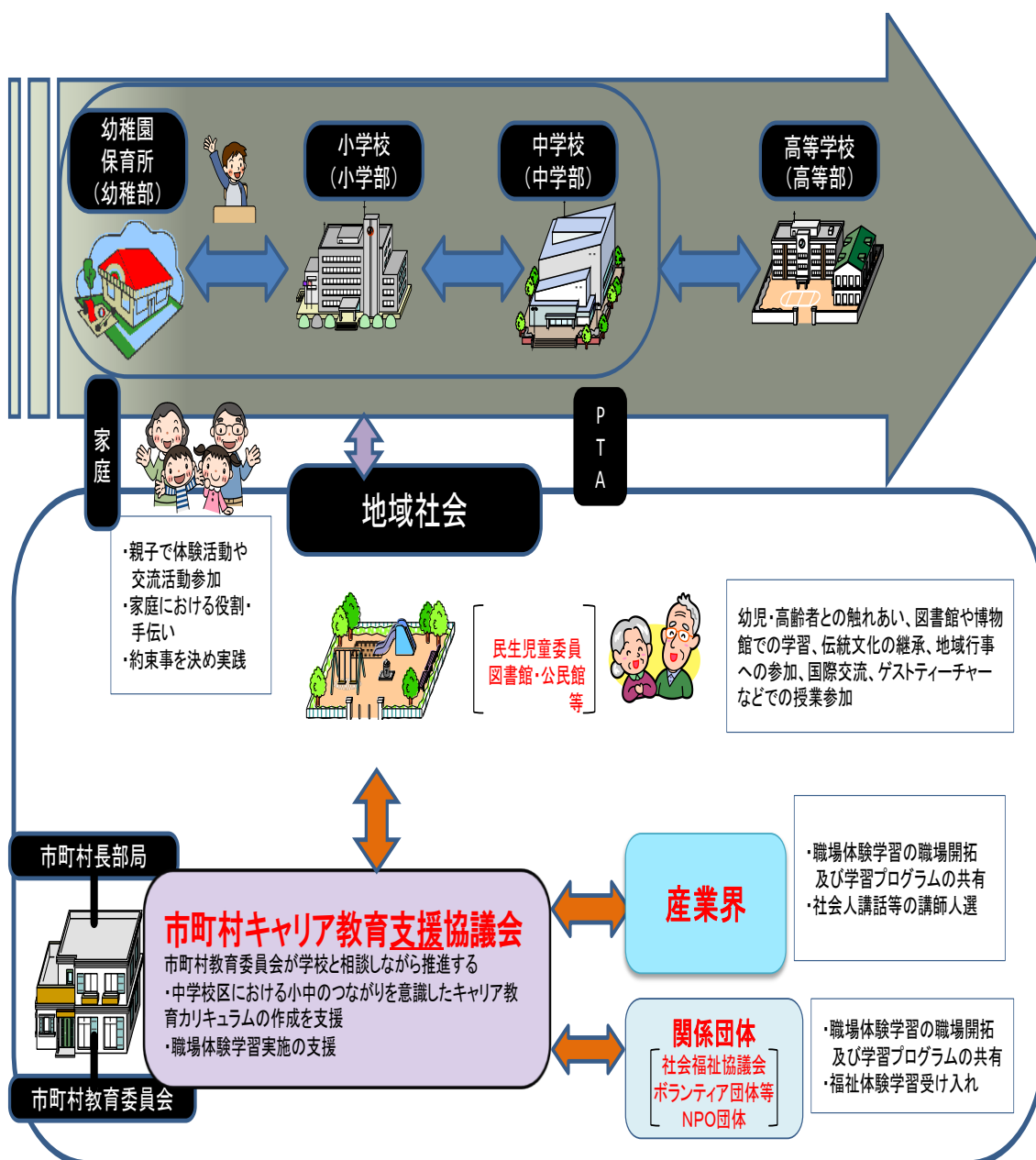
市町村キャリア教育支援協議会における地域社会の声を聞きながら学校が行う。県の支援センターは参考例を示す。

【方策(3)】 教職員の研修の推進

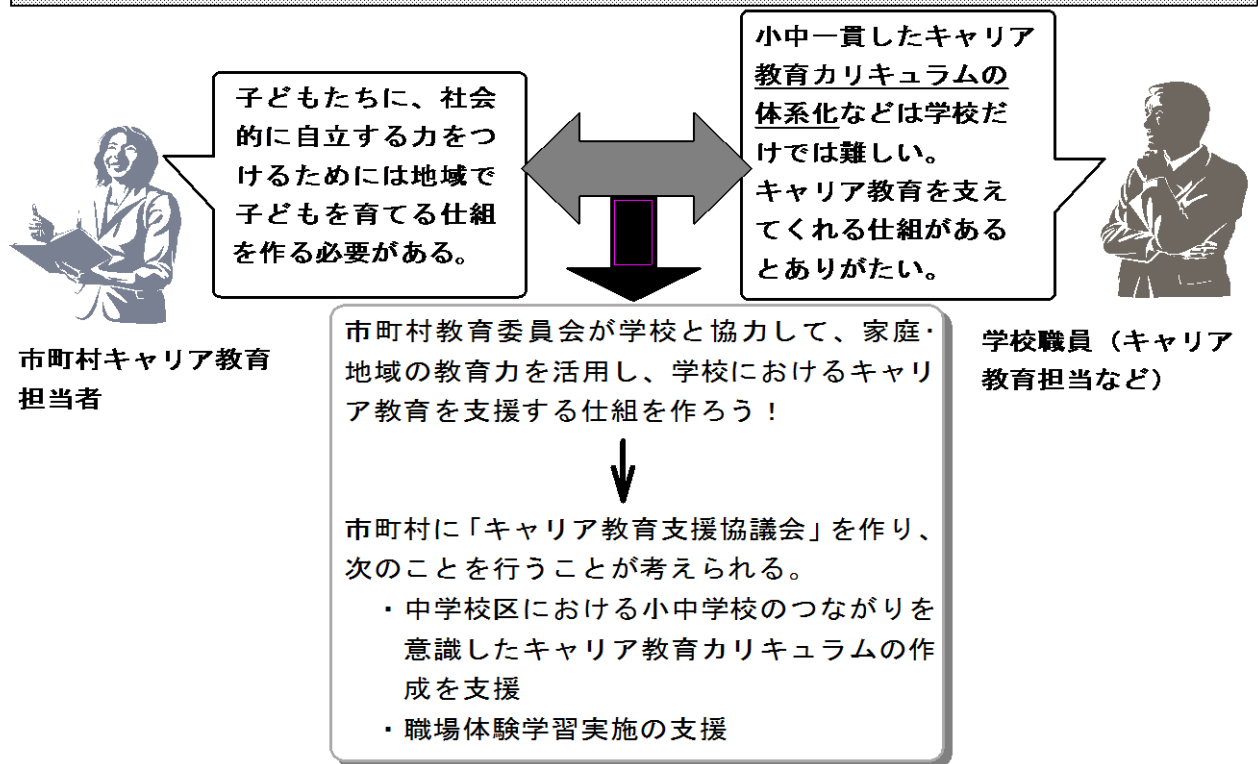
主に各学校で行う。
指導主事の学校訪問や「県キャリア教育支援センター」で支援する。

Ⅲ 家庭・地域の教育力を活用した 学校のキャリア教育支援

市町村キャリア教育支援協議会を中心とした学校を支える仕組み
(プラットフォーム)



市町村にキャリア教育支援協議会を中心としたプラットフォームをつくるには・・



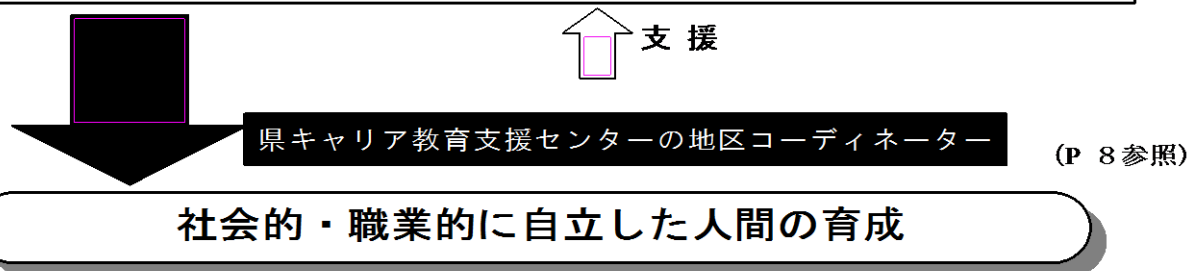
キャリア教育支援協議会のメンバーは？

- 1 県経営者協会支部、県中小企業団体中央会支部、商工会、商工会議所、JAなどの産業界
- 2 PTA、同窓会、民生児童委員、図書館・公民館などの地域の人々
- 3 社会福祉協議会、ボランティア団体、NPO団体、住民自治協議会などの地域にある諸団体 と、
市町村教育委員会、市町村長部局 学校関係者から構成することが考えられる。

プラットフォームづくりは？

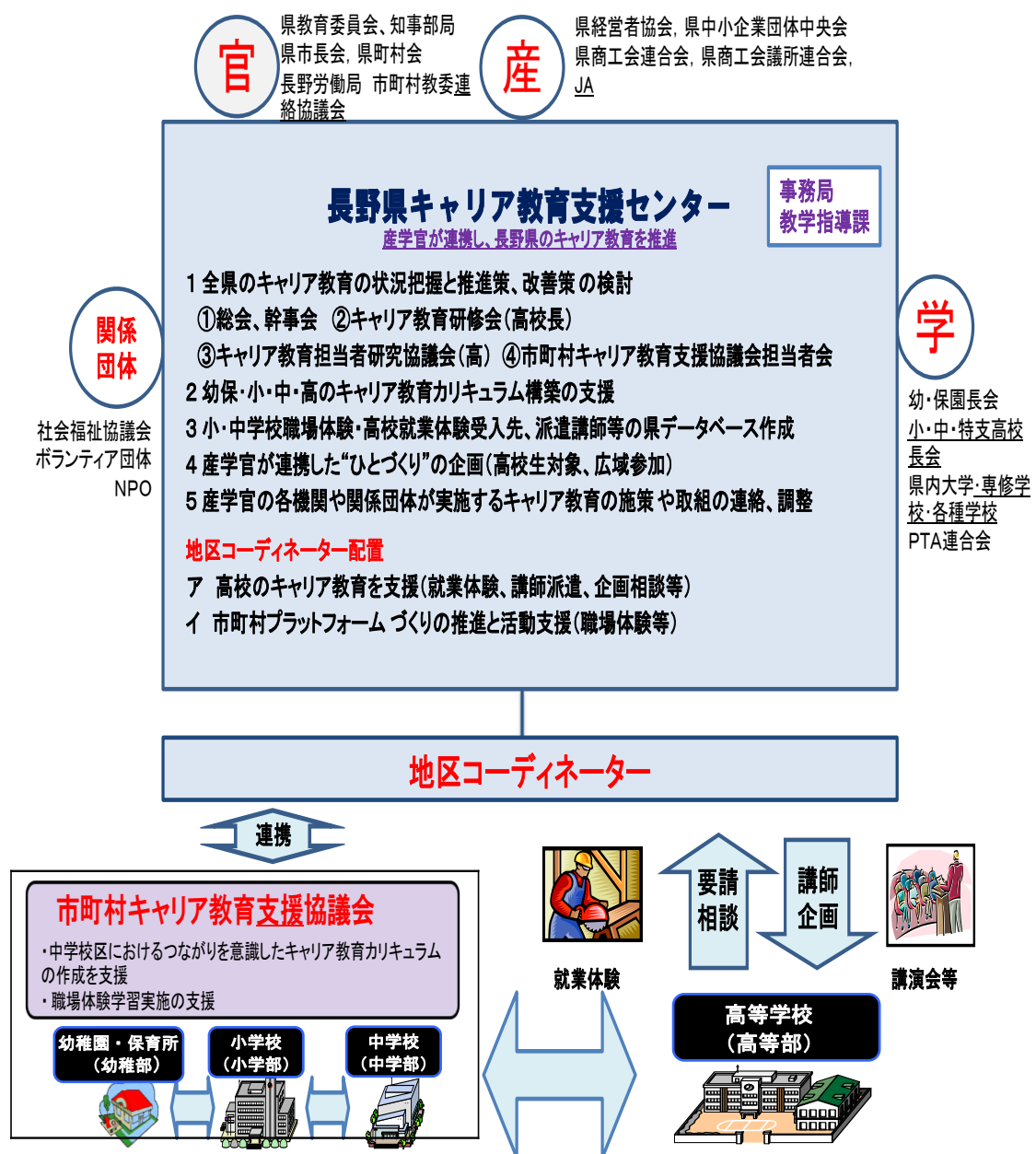
市町村キャリア教育支援協議会を中心とし、家庭・地域の教育力を積極的に活用した、学校のキャリア教育を支援する仕組みを作ること

既に、地域で学校を支える仕組み（学校支援地域本部事業など）がある場合は、その仕組みを活用することが考えられる。



Ⅳ 産学官等の諸機関、団体が連携する県の組織とキャリア教育支援

1 「長野県キャリア教育支援センター」の設置



2 「長野県キャリア教育支援センター」の仕組

(1) 目的

【方策(1)】により、長野県教育委員会内に「長野県キャリア教育支援センター」を設置する。センター所属の地区コーディネーターを県下に配置し、高等学校のキャリア教育を支援するとともに、市町村のプラットフォームづくりを推進し活動を支援することによって、長野県全体のキャリア教育の進展を図る。

(2) 組織

産業界：県経営者協会、県中小企業団体中央会、県商工会連合会、県商工会議所連合会、J A

教育界：幼・保園長会、小・中・高・特支各校長会、県内大学・専修学校・各種学校、P T A 連合会

行政：県教育委員会、知事部局関係課、県市長会、県町村会、長野労働局 市町村教委連絡協議会

諸団体：社会福祉協議会、ボランティア団体、N P O 等

センター長：教学指導課長 事務局：県教育委員会教学指導課
地区コーディネーター

(3) 役割

- ① ガイドラインに基づく全県のキャリア教育の状況把握と推進策、改善策の検討
- ② 小・中・高のキャリア教育カリキュラム構築の支援
- ③ 小・中学校等職場体験・高校就業体験受入先、派遣講師等の県データベース作成
- ④ 産学官が連携した“ひとづくり”の企画（高校生対象、広域参加）
- ⑤ 産学官の各機関や関係団体が実施するキャリア教育の施策や取組の連絡、調整

地区コーディネーター

ア 高校のキャリア教育支援（就業体験、講師派遣、企画相談等）

イ 市町村プラットフォームづくりの推進と活動支援（職場体験等）

(4) 会議

名称	参加者	内容	回数（年間）
総会	全員 （2）組織 記載者	○センターの役割（3）に係る事項全般 ○年間の活動計画と総括	2回 （5, 2月）
幹事会	センター長、事務局 地区コーディネーター	○各地区の状況把握（地区コーディネーターの活動報告） ○総会に係る事務	5回 （4, 5, 9, 12, 2月）
キャリア教育研修会	高等学校長 地区コーディネーター	○各校のキャリア教育の工夫、課題等の情報交換と研究協議 ○校長のリーダーシップ	1回
キャリア教育担当者研究協議会	高校のキャリア教育担当者、地区コーディネーター	○各校のキャリア教育の工夫、課題等の情報交換と研究協議	1回
市町村キャリア教育支援協議会担当者会	市町村キャリア教育支援協議会の担当者、地区コーディネーター	○各市町村における支援協議会の構築や活動に係る研究協議、情報交換	2回 （4, 2月）

V 市町村(学校組合)教育委員会の取組

各市町村(学校組合)教育委員会ではキャリア教育の担当者を置いて、学校と連携しながら次のようなことに取り組むと、キャリア教育が一層充実する。

1 市町村キャリア教育支援協議会の設置・運営を中核として推進

(1) 学校と連携しながら運営組織の決定・運営

- 市町村教育委員会の担当者を中心にして、市町村キャリア教育支援協議会組織（構成メンバー）の決定及び依頼
- キャリア教育支援協議会の運営
 - ・キャリア教育支援協議会の開催

(2) 小・中学校における職場見学・職場体験学習実施の支援

- 職場見学・職場体験受入先事業所の調整・開拓・拡大
 - ・主として市町村内の中学校の職場体験学習の日程や受入事業所の調整

(3) 中学校区におけるキャリア教育推進のための支援

- 中学校区における小・中のつながりを意識したキャリア教育カリキュラムの検討
- 中学校区内の幼稚園・保育所とのカリキュラムの検討

(4) 地域にある高等学校と連携を取りながらカリキュラムを検討

※キャリア教育支援協議会の設置、運営については、各市町村の状況に応じて、市町村内部での連携の他に、近隣の市町村の連携(広域的連携)も視野に入れて取り組むことも考えられる。

2 家庭との連携を積極的に支援

- 家庭におけるキャリア教育に関する啓発活動
- 子育て事業担当課との連携
 - ・「親子の会話」「お手伝い」「あいさつ」「親子で読書」など家庭におけるキャリア教育の取組の推進

3 地域との連携を積極的に支援

- 地域の企業へのキャリア教育の広報活動
- 社会人講師や協力ボランティア等の人材バンクづくり
- 体験活動・地域行事などの時期や活動の様子などの地域への広報

VI 幼稚園・保育所・学校の取組

1 幼稚園・保育所におけるキャリア教育

幼稚園・保育所におけるキャリア教育では、自発的・主体的な活動を促すことが大切である。

幼児期におけるキャリア発達課題としては、次の点が特に重要である。

- ①五感を使って遊ぶ。（一人遊び・群れて遊ぶ体験）
- ②やってみたいことを見つけ、夢中になって行う。（のびのび活動する体験）

○子どもの活動・遊びをキャリア発達の視点から見直す

- ・キャリア発達の視点から今ある活動を見直し、カリキュラムを再検討・作成する。その際、動物飼育・作物栽培、福祉交流体験等の体験的な活動を大切に考える。

○キャリア教育についての職員研修と共通理解

- ・キャリア教育の意義、幼児期におけるキャリア発達の特徴を理解するために、職員研修を行う機会を設定する。

○家庭との連携、協力

- ・子どもの1日の生活の様子を家庭に伝え、しつけ・子どもへの接し方等について家庭との共通理解を図る。

○幼保・小連携の視点でのカリキュラム検討

- ・幼保・小連絡会議や市町村キャリア教育支援協議会で小学校区ごとの研修会をもち、指導計画等を使って情報交換をし、子どものキャリア発達についての理解を共有する。

新学習指導要領

各教科の指導においてキャリア教育の視点をもつ。

ア 新学習指導要領の基本的な考え方である「知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランス」や「言語活動の充実」がめざすものはキャリア教育の考え方と重なること

イ 今学んでいることが社会でどのような意義をもつか、どのように活用できるか等を意識することが、学ぶこと、生きること（働くこと）への意欲につながることを

2 小学校におけるキャリア教育

小学校におけるキャリア教育では、社会性・自主性・自律性・関心・意欲等を養うことが大切である。

各学年団（低学年・中学年・高学年）におけるキャリア発達課題に対して、以下のような体験を積み重ねていくことが重要である。

- | | |
|------------|---|
| 低学年 | ①小学校生活に適応し、友達と仲良く遊び、助け合う。
(群れて遊ぶ体験) |
| | ②自分の好きなことを見つける。
(のびのび活動する体験) |
| 中学年 | ①係や当番活動に積極的にかわり、働くことの楽しさが分かる。
(役割貢献・お手伝いの体験) |
| | ②友だちと協力して活動する中で、成就感を味わう。
(人とかわる体験) |
| 高学年 | ①集団において自分の役割や責任を果たし、最後までやり通す。
(やり遂げる体験) |
| | ②体験のまま終わらず、学んだり体験したことと、生活や職業との関連を考える。
(地域・社会とつながる体験) |

○現在の教育課程をキャリア教育の視点から見直す

- ・上記体験活動は、既に多くの小学校で行われている。キャリア発達の視点で今ある活動を見直すことが、自校におけるカリキュラムの再検討・作成になる。その際、農業体験、林業体験、福祉交流体験等の体験的な学習を大切にしていくと更に効果的である。

○キャリア教育についての職員研修と共通理解

- ・キャリア教育の意義、小学校におけるキャリア発達の特徴を理解するために、職員研修を行う機会を設定する。
- ・各学校におけるキャリア教育の目標、「基礎的・汎用的能力」を踏まえた育成すべき能力や態度を決めることが必要である。そのために、キャリア教育担当職員を中心に、全職員で「目指す児童の姿」を検討する。

○カリキュラムの検討・作成（全体計画・年間指導計画）

- ・各学校でキャリア教育の目標、育成すべき能力や態度の設定、教育内容と方法、各教科等との関連を全体計画として示し、キャリア教育の教育課程への位置づけを明確にする。
- ・児童の学年に応じた育成すべき能力や態度の目標を設定し、各教科、道徳、総合的な学習の時間、外国語活動、特別活動及び学級や学年の取組等を相互に関連づけた学年別年間指導計画を再検討する。
- ・学年別年間指導計画をもとに、各学校における体系的・系統的な6年間のカリキュラムを作成する。

○評価の在り方

- ・各学校で決めた育成すべき能力や態度の到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化する。
- ・児童の成長や変容に関する評価、教育活動としてのキャリア教育全体の評価の視点がある。生徒にどのような力が身についたのか、教育活動は効果的であったか、指導計画は適切であったかなどについて評価し、改善に結びつけ次期の計画に反映させる。
- ・一人一人の児童の意欲・態度や能力がどのように変容し成長したか、その子のよさや可能性、伸びている面を伝えていく。

○家庭・地域との連携、協力

- ・キャリア教育の取組を通して成長した子どもの姿やよさを授業参観日、学校便りなどで家庭・地域に発信する。
- ・今ある地域との連携（既存の組織）を基盤として、さらに活動を充実させる。

○小・中連携の視点でのカリキュラムの検討

- ・小中学校連絡会議や市町村キャリア教育支援協議会で中学校区ごとの研修会をもち、指導計画等を使って情報交換し、小・中のつながりを意識したカリキュラム作成を研究する。

3 中学校におけるキャリア教育

中学校におけるキャリア教育では、社会における役割や将来の生き方等を考えさせ、目標を立てて計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導くことが大切である。

中学校におけるキャリア発達課題としては、次のような点が特に重要である。

- ① 興味・関心・意欲等に基づく勤労観・職業観の形成
- ② コミュニケーション能力の育成
- ③ 肯定的自己理解と自己有用感の獲得

中学校のキャリア教育では、職場体験学習を中心にして考えることが効果的である。

○職場体験学習を中核とした3年間のカリキュラムの再検討・作成

- ・生徒が将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方について考えることができるよう、職場体験学習を3年間の中で最低でも3日以上実施すると成果が上がると言われている。
- ・職場体験学習を通して育成しようとする能力や態度、具体的なねらいを設定し、その達成を図るための系統的な事前指導や事後指導を充実させる。その際、生徒が自己肯定感を基盤に自分を見つめる機会を設けることが重要である。
- ・各学校では、職場体験学習を中核に生徒や地域の実態に応じて焦点化・重点化した全体計画・年間指導計画の再検討・作成を行う。

○キャリア教育についての職員研修と共通理解

- ・キャリア教育の意義、中学校におけるキャリア発達の特徴を理解するために、職員研修を行う機会を設定する。
- ・各学校におけるキャリア教育の目標、「基礎的・汎用的能力」を踏まえた育成すべき能力や態度を決めることが必要である。そのために、キャリア教育担当職員を中心に、全職員で「目指す生徒の姿」を検討する。

○評価の在り方

- ・各学校で決めた育成すべき能力や態度の到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化する。
- ・生徒の成長や変容に関する評価、教育活動としてのキャリア教育全体の

評価の視点がある。生徒にどのような力が身についたのか、教育活動は効果的であったか、指導計画は適切であったかなどについて評価し、改善に結びつけ次期の計画に反映させる。

- ・一人一人の生徒の意欲・態度や能力がどのように変容し成長したか、その子のよさや可能性、伸びている面を伝えていく。

○家庭・地域との連携、協力

- ・キャリア教育の取組を通して成長した子どもの姿やよさを授業参観日、学校便りなどで家庭・地域に発信する。
- ・今ある地域との連携（既存の組織）を基盤として、さらに活動を充実させる。

○小・中連携の視点でのカリキュラム検討

- ・小中学校連絡会議や市町村キャリア教育支援協議会で中学校区ごとの研修会をもち、指導計画等を使って情報交換し、小・中のつながりを意識したカリキュラム作成を研究する。

○中・高連携の視点でのカリキュラム検討

- ・市町村キャリア教育支援協議会や近隣の高校との連絡会議で、指導計画等を使って情報交換し、中・高のつながりを意識したカリキュラム作成を研究する。

4 高等学校におけるキャリア教育

○キャリア教育についての職員修と共通理解

- 学校目標と「基礎的・汎用的能力」を踏まえた「つけたい力」を明確にし、既存の様々な取組を見直し体系化するとともに、評価方法（観点や指標等）について研究する。

- 様々な活動を教育課程の「特別活動」（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）、「総合的な学習の時間」に位置づける。また普通科は専門学科のある高校との連携を図る。

- 各教科でキャリア教育の視点を加えて指導する。

- 以下について教育課程の検討などを行う。

- ア 普通科において、「産業社会と人間」の実施や就職を目指す生徒に対する職業科目を充実し、資格取得を推進、基礎学力を定着

イ 進学を目指す生徒が、目的意識を深め、課題対応能力等の基礎的・汎用的能力を培うことを意図する「総合的な学習の時間」の工夫

ウ 就業体験の充実

*生徒全員が行う

・職業観・勤労観の育成と、進路研究、自己適性の理解、将来設計の具体化等自己の将来を考え、社会や職業に対する認識を深めるとともに学ぶことの重要性を考えさせる機会となるよう、地域や学校の実態、生徒の状況に応じて内容や方法を工夫し、実施する。

・地区コーディネーターの活用や連携を図る

*日数の延長や長期間化、複数回の実施と単位認定

*事前・事後指導の工夫

エ 働く者の権利や労働に関する法律、社会保障等について学ぶ機会の工夫

オ 中・高のキャリア教育カリキュラムの連続性

*中・高のつながりを意識したカリキュラム作成を研究する。

○キャリア教育に組織的に取り組むため、校務分掌にキャリア教育担当者を置く。

5 特別支援学校におけるキャリア教育

○キャリア教育についての職員研修と共通理解

○現在の教育課程を発達段階に応じた勤労観・職業観を育成する視点から見直す。

○卒業後の生活を見通し、医療・福祉・保健・労働等の関係機関との連携により「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画」を作成し、活用する。

○キャリア教育の視点を盛り込んだ「個別の指導計画」を作成し活用する。

○一人一人の勤労観・職業観を育むために、発達段階や個々のニーズに応じた、具体的な力・实际的に働く力を育成する。

○地域及び福祉施設や企業等の関係機関と連携を図り、職場見学、職場体験、産業現場等における実習の機会を計画的に設け、進路選択を具体的なものにしていく。

○地域及び福祉施設や企業等の関係機関と連携を図り、外部講師による福祉制度や進路についての学習会、地域や企業等の方への学校公開等を通して、適切な進路情報を提供すると共に、社会全体への啓発活動を推進する。

今行っている活動をつなげて

長和町和田地域の保・小・中で すすめるキャリア教育

地域で育つ、地域に生きる、地域を活かす



飯田市ですすめる小中一貫キャリア教育

かざこしカリキュラム

テーマ ふるさとの未来と私の夢

N 中学校

各学年のキャリア教育の中核活動（ふるさと学習）

中学校テーマ「ふるさとに生かされている私」



- 3年 林業体験を通して地域に貢献できることを考える
かざこし山での林業体験
- 2年 職場体験を通して自己の生き方を考える
5日間の職場体験
- 1年 農業宿泊体験を通して農家の人の生き方を学ぶ
農家での農業宿泊体験

ブレN中プログラム（6年生対象・中学校移行プログラム）

テーマ 中学校への夢と今の私

- N中の小学校への出張授業（英語、数学、理科）
- N中の行事への参加（文化祭、探鳥会、並木作業 など）
- N中オープンスクール ○キャリア教育実践発表会への参加



教職員連携プログラム

- キャリア教育職員研修会 ○小中連携キャリア教育推進委員会（カリキュラム作成）
- ブレN中プログラム推進委員会 ○幼保小中連携推進委員会

M 小学校

小学校テーマ「ふるさとが好き私が好き」

- 6年 働く人との出会いを通して自分を見つける 1日職場体験
- 5年 米作りを通して、働くことの喜びを味わう 「丸山米」づくり
- 4年 伝統工業にふれ、地域の伝統工業に関心をもつ 水引体験
- 3年 公共施設の見学を通して、私たちの生活を守ってくれている人がいることを知る 公共施設の見学
- 2年 大豆の栽培で地域の人たちとの交流を通して、地域の人たちとのつながりに気づく 大豆の栽培
- 1年 朝顔の栽培を通して、朝顔とともに成長している自分に気づく 朝顔の栽培



家庭におけるキャリア教育

「わが家の結びタイム」の実践

お手伝い（仕事）読書 あいさつ
スイッチを切って親子の会話



地域におけるキャリア教育

公民館、まちづくり委員会などの活動への参加
（地区の運動会 クリーン作戦 たこ揚げ大会など）

「飯田型キャリア教育」において育みたい5つの力

自分を見つめ夢や目標を描く力

課題をもって最後までやりぬく力

職業や仕事について興味・関心をもつ力

人とつながる力（細い力）

ふるさとのよさに気づき自らかかわる力（ふるさと生活能力）

ふるさとにおける体験的な活動や地域の人との出会いを通して、今の私を見つめ、未来へ向けての夢をもつ

中野西高校でめざすキャリア教育

「地域の子どもを地域で育てる」

学校教育活動全体をキャリア教育の視点からとらえ、地域と連携しながら、勤労観・職業観を育み、社会的・職業的自立に必要な能力を身につけさせる。

1年

- 自己理解、自己管理能力
(前向きに考える力、忍耐力)
- 人間関係、社会形成能力
(マナー、コミュニケーションスキル)

2年

- 情報活用能力
(情報収集力、情報選択力、情報活用力)
- 課題対応能力
(課題発見力、自己改善力)

3年

- プレゼンテーション能力
(聞く力、話す力)
- キャリアプランニング能力
(将来設計力、実行力)

- 翔舞塾(土曜日の施設開放、模試、補習講座)
- キャリアカウンセリング
- ずく出せ修行就業体験(夏季休業)
- PTA研修旅行(大学・企業等見学、生徒参加も可)
- COL(クリーン・オリエンテーリング 地域清掃活動等)
- 翔舞祭
- 総合的な学習の時間
- LHR
- 中野市ボランティア



- オリエンテーション週間(校外)
- キャリア教育講演会
- 仕事レポート
- 職業別進路講話(保護者が講師)



- 信州大学見学会
- キャリア教育講演会
- 進路別ガイダンス
- 修学旅行
- 春季学習合宿(校外)



- 各種ガイダンス(推薦面接・一般受験・小論文等)
- 先輩と語る会
- 夏季学習合宿(校外)

中野立志館高校(総合学科)との連携



出前授業、合同進路説明会等



地域小・中・高
短大・大学



中野西高校
キャリア教育推進委員

中野西高校
キャリア教育推進
連携会議

地域産業界



地域活動への参加、ボランティア活動への参加
(地域小・中学校との連携等)



市町村教委
地域自治体



就業体験の受け入れ
地域企業人の講師派遣等

キャリア教育の体系化（文部科学省「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」から抜粋）

発達段階			小学校			中学校			高等学校		
目 標 と 基本的方向性			(社会的・職業的に自立した人間の育成) 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す ○幼児期の教育から高等学校まで、発達の段階に応じて体系的に実施 ○様々な教育活動を通じ、基礎的・汎用的能力を中心に育成								
課 題			進路の探索・選択にかかる基盤形成 ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成			現実的探索と暫定的選択 ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索			現実的探索・試行と社会的移行準備 ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観・職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加		
推進の主なポイント			社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養う (幼児期・・・自発的・主体的な活動を促す)			社会における役割や将来の生き方等を考えさせ、目標を立て計画的に取り組む態度を育成し、進路の選択・決定に導く			生涯にわたる多様なキャリア形成に必要な能力や態度を育成し、勤労観・職業観等の形成・確立に導く		
基礎的・汎用的能力	社会形成能力	・他者を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える力 ・自分の状況を受け止め、他者と協力・協働して社会に参画し社会を形成する力	低学年 ・あいさつや返事をする ・友だちと仲良く遊び、助け合う	中学年 ・友だちのよいところを認め励まし合う ・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する	高学年 ・自分と異なる意見も理解する ・異年齢集団の活動において役割と責任を果たそうとする	・新しい環境や人間関係に適応する ・自分の言葉が、相手や他者に及ぼす影響がわかる ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する			・他者の価値観やユニークさを理解し受け入れる ・異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションを図る ・リーダー・フォロアースhipを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める		
	自己管理能力	・自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動する力 ・自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	・自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う	・自分のよいところを見つける	・自分の長所や欠点に気づき、自分らしさを発揮する	・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する			・自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする		
	課題対応能力	・仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、計画を立ててその課題を処理し、解決する力	・作業の準備や片付けをする ・自分のことは自分で行う	・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする	・憧れとする職業を持ち、今しなければならぬことを考える	・よりよい生活や学習、進路や生き方等をめざして自ら課題を見いだしていくことの大切さを理解する ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分のめざすべき将来を暫定的に計画する			・職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する ・将来設計、進路希望の実現をめざして課題を設定し、その解決に取り組む		
	キャリアプランニング能力	・「働くこと」の意義を理解し、立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら、主体的に判断してキャリアを形成していく力	・家の手伝いや割り当てられた仕事の必要性がわかる ・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ	・互いの役割や役割分担の必要性が分かる ・いろいろな職業や生き方が分かる	・社会生活には様々な役割があることが分かる ・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる	・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える ・上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の略歴が分かる			・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。 ・多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める ・職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる		

知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」国立特別支援教育総合研究所（2010）から抜粋

	小学部	中学部	高等部			
キャリア発達の段階	職業及び生活にかかわる基礎的な能力獲得の時期	職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び卒業後の家庭生活に必要な能力を実際に働く生活を想定して具体的に適用するための能力獲得の時期			
職業的（進路）発達にかかわる諸能力	小学部段階において育てたい力	中学部段階において育てたい力	高等部段階において育てたい力			
能力領域						
人間関係形成能力	幼児期からの遊びを中心とした発達全体の促進	人とのかかわり		自己理解・他者理解		
		●自分の良さへの気づき ●友達の良さの気づき	●達成感に基づく肯定的な自己理解、相手の気持ちや立場の理解	●職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重		
集 団 参 加		協力・共同				
●大人や友達とのやりとりと集団活動への参加		●集団における役割の理解と協力	●集団（チーム）の一員としての役割遂行			
意 思 表 現						
●日常生活に必要な意思の表現		●社会生活に必要な意思の表現	●必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力			
挨拶・清潔・身だしなみ		場に応じた言動				
●挨拶、身だしなみの習慣化		●状況に応じた言葉遣いや振る舞い	●TPOに応じた言動			
様々な情報への関心		情報収集と活用				
●仕事、働く人など身の回りの様々な環境への関心		●進路をはじめ様々な情報の収集と活用	●職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用			
社会資源の活用とマナー		法や制度の活用				
●地域社会資源の活用と身近なきまり		●社会の仕組み、ルールの理解	●社会の様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用			
金銭の扱い		金銭の使い方と管理		消費生活の理解		
●体験を通した金銭の大切さの理解		●消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費	●労働と報酬の関係の理解と計画的な消費			
はたらくよろこび		役割の理解と働くことの意義				
●自分が果たす役割の理解と実行		●様々な職業があることや働くことに関する体験的理解 ●学校生活、家庭生活において自分が果たすべき役割の理解と実行	●職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割の実行			
習 慣 形 成						
●家庭、学校生活に必要な習慣づくり		●職業生活に必要な習慣形成	●職業生活に必要な習慣形成			
夢 や 希 望						
●職業的な役割モデルへの関心		●将来の夢や職業への憧れ	●働く生活を中心とした新しい生活への期待			
や り が い		生きがい・やりがい				
●意欲的な活動への取組	●様々な学習活動への自発的な取組	●職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用				
	進 路 計 画					
	●目標を実現するための主体的な進路計画	●将来設計に結びつく進路計画				
目 標 設 定						
●目標への意識、意欲	●目標の設定と達成への取組	●将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組				
自 己 選 択						
●遊び、活動の選択	●自己の個性や興味・関心に基づいたよりよい選択 ●進路先に関する主体的な選択	●産業現場等における実習などの経験に基づく進路選択				
振 り 返 り		肯定的な自己評価				
●活動の振り返り	●活動場面での振り返りとそれを次に生かそうとする努力	●産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価				
	自 己 調 整					
	●課題解決のための選択肢の活用	●課題解決のための選択肢の活用				

◎長野県キャリア教育推進協議会

《座長》

系井 重夫 松本大学松商短期大学部 教授

《委員》

伊澤 宏爾 飯田市教育委員会 教育長

伊藤かおる 株式会社コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長

久保 正直 アスザック株式会社 代表取締役社長

栗原 満 中野市教育委員会 教育長

玉井 康子 ジョブカフェ信州 若年者就業支援アドバイザー

直井 良一 元信州ハム株式会社 常務取締役

藤澤 令子 長野県経営者協会 教育研修部 課長

伏木 久始 信州大学教育学部 准教授

三木 正夫 須坂市長

和田 晶宜 株式会社長野ダイハツモータース 代表取締役社長

◎協議会 経過

第1回 平成23年6月8日

第2回 平成23年7月22日

第3回 平成23年9月21日

パブリックコメント9月22日～10月21日

第4回 平成23年11月11日